



## 鯽が来た道

お年取りに欠かせないブリの粕汁

長野県には12月31日の大晦日に一年の無事を感謝し、歳神様を迎えるための御馳走をいただく「お年取り」という一大行事があります。

この時に欠かせないのが「年取り魚」です。地域によって鮭か鯽（ブリ）かに分かれていますが、中南信地区では昔から「年取り魚」と言えば「鯽」でした。

鉄道が発達する以前、ブリは富山から馬や牛の背に揺られて伊那谷へと運ばれてきました。このブリを「飛騨鯽（ひだぶり）」と呼んでいました。富山湾で水揚げされたブリは保存のために内臓を取り塩を詰めて麦わらで包んで運びましたが、富山から伊那谷まで約半月かかったといわれています。

中川村へは富山から高山を経由して野麦街道を使い、境峠を越えて木曽へ入り、中山道の日義から権兵衛峠を越えて伊那へ入り三州街道を南下するルートと、日義から中山道を南下し妻籠から大平峠を越えて飯田へ入り三州街道を北上するという二つのルートがありました。

富山ではブリ1本が米1斗で取引されていたものが、伊那谷ではブリ1本が米1俵とも2俵ともいわれる価格に上がり、とても高価なものとなっていました。それでもお年取りに欠かせないブリです、お金の工面をして購入していたようです。

みなさんのお宅ではお年取りにブリを食べますか？



# 特別展開催中！

現在、特別展「ここがスゴい！苅谷原遺跡」を開催しています。片桐地区にある苅谷原遺跡は昭和20年代から注目されてきた遺跡です。

資料館のリニューアル期間中におこなった苅谷原遺跡の再整理の成果を凝縮!?した展示となっています。

～寒冷化が進み森からの恵みが少なくなってしまった縄文時代晩期の中川で暮らしていた人々のところへ三河から人々がやってきました。彼らは「イネの粃」を入れた壺を携え、中川の地に弥生文化を伝えました…～といった情景が思い浮かぶような内容となっています。

三河から伝えられた文化は苅谷原の地になにを遺したのか、苅谷原遺跡とは何者なのか、などぜひ苅谷原遺跡の面白さとスゴさに触れてください。令和8年1月31日（土）まで開催しています（開館時間など詳細は中川村ホームページ＞歴史民俗資料館をご覧ください）。

お待ちしています



かりやん



土製円盤(かりやんのモデル)



三河の土器の特徴が強い壺

## ◆お知らせ

歴史民俗資料館は11月18日に竣工式が執りおこなわれ、無事リニューアルオープンを迎えることができました。

初日から大勢の方々が来館してくださり、「展示が見やすいね」、「広々として気持ちがよいね」という温かいお言葉をたくさん頂きました。特に、昭和30年代から50年代の茶の間を意識した展示が好評です。

新たなスタートを切った資料館、「何度でも来たい資料館」を目指し、新たな企画を計画中です。これからも中川村歴史民俗資料館をよろしく願いいたします。



竣工式テープカット前の写真

## ◆お知らせ

「何度でも来たい資料館」を目指し資料の収集をおこなっています。昭和50年代ごろの玩具（黒ひげ危機一髪やチョロQ、ミニ四駆など）を探しています。また家の片づけなどで見つかった古文書や民俗資料、写真、軍事郵便などがありましたらお知らせください。特に戦争関係の資料や昭和58年の災害についての資料を探しています。大切な資料を次世代へ引き継ぐためにもよろしくお願いいたします。

詳しくは…

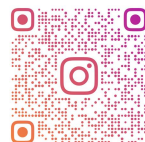
中川村教育委員会

TEL：0265-88-1005

中川村歴史民俗資料館

TEL：0265-88-3452 までご一報ください。

歴民館の様子をときどきUpしています→



NAKAGAWA\_REKIMINKAN